周 易 傳 義 補 疑

がほれていたと気があいたかる 在外中的人多大行为方在 金田主要は北次して、他には三 セスロがすてていたまです Aが清波を落中子井井 一次至亦未編井蘇其規凶幾至未及用亦與申文子及是為四十十十之用, 心至亦未編井蘇其規凶幾至未及用亦與 色大小川学が大力はる方は オチュンカスの現る日周易傳義補疑卷之七 松子界一代在上次公司到 男先ともけ出を使るなみ主 芝七明蔵 書は家は民 ある方を湯すだて手へかり時 は 唐いのかる 関でも歴史久 下竟 多作 年皇井改邑不改并邑可设并不可是无丧无得井之德往来 かる正すが大 木下便于井同往來井井謂往者得水而上來者求井而 ALT AR AND STREET, TAILED 為言謂上升不已而困則必反於下也物之在下者莫 如井井所以次因也 傳因于上者必反下故受之以井承上升而不已必因 - 後學冊陽姜 實際註—門人 梁山古之賢

党 要我你的我也是怎么一可是汲井之事 は物で用うお食のなえ 大文子を不動不らいの様式 并不行死者死以来 まではるですばればあ 見のなる不らんな大変 多九日也は多天在九日十五日 九伊るかな、家在か年井内 すれかろスエエスをかる 那般といて多人ななど のまてかればは一体は長者 其水故為井改邑不改井故无丧无得而住者來者皆 得也至者皆得其用性來井井也无丧无得其德也常 義并者穴地出水之處以異木入乎坎水之下而上出 傳并之為物常而不可改也已可改而之他并不可建 往來井井其用也周常也周也井之道也完終也編便 也故曰改邑不改井汲之而不竭存之而不盈无丧无 羸敗其瓶而失之其用丧自是以凶也羸毀敗也〇本 也井以齊用為功幾至而未及用與未下編於井同也

是曾经教教教下往来当井其井也井改邑至往來井井三句是井之事

おてあましたらるちまと 四日或我安全意在路里用可既乎 好任证但只正开上我比好出作未知很没不送来 在我是女子等日 录日異乎水等而上水以井井養而不窮也事飲能准旧 是 其本本 万春·台西震等 改邑不改并乃以割中也五割則不變汽至亦春稿并未 世五本のおび木里ガテセマこ 大きな おおれてからなること 有功也蘇其稱是以凶也 本義以卦象釋卦名義 当代所 すいれまで名上るなよらは上きるのかしまるなおかまてるあ 井其井也治與也緣便也蘇敗也汲井與至未盡便而 敗其瓶則凶也其占為事仍舊无得丧而又當故勉不 上有水為器汲水出井與蘇其瓶本文不合此則非所 可矣成而敗也〇據录傳似當主程說為是但程解木 しとりせ Ţ

なかるしか好るながぬか おえせかかれおえてあると 我的是你是家日木上有水井君子以勞民勘相 おななはないでれたう 对南军石的长 循环上面 おいれるかる井田平浦五 水南北の山土はする 也故取之而不竭德有常也色可改井不可選亦其德 之常也二五之爻副中之德其常乃如是卦之才與義 傳巽入於水下而上其水者井也井之養於物不有窮 井同井以濟用為功水出乃為用未出則何功也瓶所 本義以卦體釋卦辭无丧无得往來并并兩句意與不 所以凶也 改井同故不復出劉中以二五而言未有功而敗其施 以上水而致用也贏敗其瓶則不為用矣是以凶也〇 合也完至亦未編并言雖使終至既未為用亦與未編

明治主要公子看到一切六井以除乘為土初六除羽在水之下故為井泥不食 以来大は古代大夫をあれ さしきるのぞる 我怕了大学自然劝商兄弟兄 びぞメガロチのそうなす 世界四人変りとある意 多方式なる以外 とかかてかをおえみなりか 男的のあせ内でで不上 イガローなる 少药丁方联 否见人通之五 かずずいいれいかえみている 漢字失 不可汲則為舊井而禽鳥亦不之願舊井无禽人 The state of the s 水津潤上行井之象也勞民者以君養民物相者使民 象盖不泉而泥則人所不食而禽鳥亦莫之顏也 本義并以陽剛為泉上出為功初六以除居下故為此 傳水承水而上之乃器汲水而出井之象君子觀井之 相養皆取井養之義〇朱子曰才上有水是木穿水中 民法井之用也勸民使相法井之施也〇本義木上有 象法井之德以劳來其民而勘勉以相助之道勞來其 張上乎水若作沒桶則與贏共瓶之說不合矣

发射的完了自己改成0||而及漏於下也 松大人の発を行しむる土 我们不我正次品的好 克在后 在不形日后放了 我在信息传教了三井旁穴出之水便能射到以汲井言如散死不足以上水 大阪の不信し 夏受見追子右佐か出 な男子を本立いなちなんだ 長門書題子か作い気豆 桑田井泥不食下 也舊并无禽時舍也 本義言為時所棄 并而就下失井之道乃井而如谷者也井上出則養人 傳二雖劉陽之才而居下上无應而比於初不上而下 这象也非之道上行者也問谷之水旁出而就下二居 泥中微物耳射注也如谷之下流注於鮒也甕散漏如 而濟物今乃下就污泥注於鮒而已鮒或以為蝦篡井

教教が金子ないたでは **可至的此九世、中人口四名不是一** 中主學并可言答為則賢才見用而天下並受其福矣 在第一章等人九三井洪不食行道之人皆為我心則以其可用汲而无 おおなとなり不みらか子 や およるままのれるのなれ で三月て下長子福石美子| 井物でのななはしれるかり用し とおらかなくしてものしらの 老九与你是王没有工上在四丁! おかんりのめえみず 日日今天 六けなるかべ 有汲者故也此循下有陽劉之才而上无用之者若王明 象曰井谷射射上无應與也是我NOST在五元左至在元共常至 用故其象占如此〇枝本我王明則沒井以及物而施 本義深不停污也九三以陽居陽在下之上而未為時 故不能上而就下是以无涿用之功如水之在蹇未可 為用刀破散而漏之不為用也〇本義九二割中有泉 甕之破漏也陽到之才本可以卷人濟物而上无應援 之象然上无正應下比初六功不上行故其象如此

政府スやまて 港九山の田井本神日異小出状 王作五台五七五七五四三 をおきるがらとはまま、日井洪不食行側也求王明受福也ませるべるこれを称と めかていきしたのなるだちと がきないるおとのすんちと 似其男と不奏 方田七かをかえなをはは 的なるるほう不らせのすら 治久世四方上考究的传 け得天然しる人な必用日歌 何是功不及尚, 六不此入 近有神名用井及此八之子! なるはゆる体がも投いる此 了分果が作品を元外はあ 内在した。その大石雪峰と まるかかろ さるかれない 局易作其相其人十名 六四井凳砌累无谷 本義以六居四雖得其正肽陰柔而非陽及除柔不泉 者受者並受其福說欠安分明說有才而遇明主則天 本義行恨者行道之人皆以為側也至不人的公正的工工 子盖文公語疵讀者不以詞害意可也 明而但汲并以及物又並受其福為并泉之施受而已 語似未妥故為補之如此如井无泉則但能修治而无 下並受其福如詩人先說比意後說歸本意也豈有王 及物之功故其象為井凳而占則无咎占者能自修治

以公并以及多数是九五井列深而有寒泉可食者也象曰寒泉之可食中正 老本はかいする生みなり 見せでしてなるかった。 なのるかが大力のなって かはる思めざからでる だけるらいなる中かがある 李九四十四年四日北北 する かるひしの 聚日井発无谷作修井不廢其事也是 若各失 佛是古艺艺 山山北京日本は大きの日本の大きの大きの日本のからますとは日本の大きの大きの日本の大きの日本の大きの日本の日本の日本の大きの大きの日本の大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの 四之楚發三之谷也洪與梵其皆有日新之功乎日新 食也於井道為至善然而不言言者井以上出為成功 傳五以陽副中正居尊位其才德盡善盡美井例寒泉 而不已寒泉之來不窮矣世見台里子母美与不有時有的中国 食也別謂甘潔也并泉以寒為美甘潔之寒泉可為人 才柔有井泥東三之,洪洪初之泥也二位柔有井谷象 則雖无及物之功而亦可以无咎矣〇胡氏炳文曰初 とないでで

双手来的人工以及好与主张

李星与秦星之意上六井收勿幕最沒有子傳施有常元吉教曰元吉在上教旨走上為多金之上六井收勿幕最沒有子傳施有常元吉教曰元吉在上 限、石出方美工房气 按学子内表的玩客一大成也对文子但是有位と一些之井上以及七井至于城界了及南·五中村艺上交通 しままのかいではます 施而有常非大人執能他卦之終為極為變唯內與井 录也 常而不變也博施而有常大善之苦也夫體井之用棒 傳井以上出為用居井之上井道之成也收汲取也第 心陽剛中正功及於物故為此象占者有其德則契其 未至於上未及用也故至上而後言元吉○本義例深 旅覆也取而不蔽其利无窮井之施廣矣大矣有字有 終乃為成功是以吉也〇本義收汲取也汲器出獨於

之井也四之梵已修之井也上之汉則出汲之井矣又 言井列寒泉曰射曰洪曰例非泉之象乎初六言井泥 陰虚之象也九二言并谷射鮒九三言并洪不食九五 之一井也泉井實也先儒以三陽為京三陰為井陽實 之必有字乃元吉也〇丘氏行可曰井卦六久合而觀 幕蔽標也有子謂其出有源而不窮也井以上出為功 不食六四言井凳无谷上六言井収勿蘇曰泥曰発曰 牧非井之象乎以卦序而言則二之射始達之泉也三 之漂巴潔之泉也五之別則可食之泉矣初之泥方掘 而坎口不將故上六雖非陽剛而其象如此悲占者應

るないであるに教物の ははるが、かんちま | | 一部下 军子四部名仍在美利以完 のが明三の名及をがまま て一般にみれるがなま 不らすばかなしなる美人 西外野野犬食で星之本 月子作水利莊八十卷 易之則清潔不可不单者也故井之後受之以幸也 傳并追不可不单故受之以单并之為物行之則穢敗 故五爻井冽而泉寒上爻井妆而勿慕切川始及物而 谷三四皆在井中将見於用故為洪為竟正上皆在井 并道大成矣 洪初之泥四井發則發二之谷既洪既發則井道至矣 上而已見於用矣故五言食而上言以也〇李李辨日 井六爻綱領最好初井泥二井谷皆廢升山三井渫則 以三久為一例則初二皆在井下不見於用故為泥為

第二十五次 天七皆不此山 モスかべらなのかませ 日以五班之本代名以初後 ならいかけるとれてなが年 うずがたれらんだる行る 不代子第一百 文化于已年之 あの日本田水の宝の上 万時中間日次年生したまで まれいえからなるながら連 说旨是是班華巴日乃字元亨利貞悔七年至年太共都華而是甚至在丁松也久久五 当本ででるなべ! えまるやれるで 大中世的羊 かましか えずれを地のとり 更幸皆大亨而得其正所草皆當而所草之悔亡也 以其内有文明之徳而外有和悅之氣故其占為有所 其卦為单也變革之初人未之信故必巴日而後信又 而非妄单名說則随時勢而非强華儿所謂单之貞也 巴口乃字言不信於方单之時而信於巴車之日也〇 有不正則所華不信不通而反有悔矣〇隆山李氏曰 則火減中少二女合為一卦而少上中下志不相得故 本義華變華也名澤在上離火在下火然則水乾水决 胡氏炳文曰日離象日入澤有已日象離明則酌義理 1 中方人はは、豆肉作も

わらみてまれるのかける かかろろれる 三大上がでし 无情去在老妖的宝宝的 花見の草を古りの見たいと · 李高明完大奏我一旦日乃至单而信之文明以於大亨以正南面當正即是 情報があれて火火ぬ息をけれ 信を上場ては不得えかえ りょゆうへほ 山がて山水车上かべ大上大思 大かる場のうとなっなないの 之父父子が昼子有一下 四十分 是天然不有市场与一个一个相息一女同居其志不相得日華等的學學 大孩女点 生昏光好方 名力ででは、大公公主作か 南己不少年中間 あやなま 四かなさらそれこのかを 王路俗律大出外或名者以 一當其悔乃亡 席 多信教神報 生自心也あるようなものませるべいないことでするがあるけんといころ 本義以計象釋計名義大器與縣相似然以相進而為 七者此獨言之重改事也是不明天不看九九年五年至子 改為之際當詳告中令至於己日使人心信之人心不! 傳事之變華人心豈能便信必終日而後子在上者於 **股相息而為華也息減息也又為生息之義減息而後** 不貞則所華人不信事不通悔不亡矣凡录未有言悔

克手於留協記 出しの物正うた著しかな ななのまとあるかもだけ その人名いおしかかま 内のかしいねかをかちと 生古其代表華一面到日本 克耳不住的社 5年一时四 最本の方里をな 東京井男花し在お其子 也单之時大矣哉 ラフターで 野まり 傳推单之道極乎天地變易時運終始也天地陰陽推 其道則反致弊害故单有悔之道唯单之至當則新舊 運改易而成四時萬物於是生長始終各得其宜華而 離為文明完高說文明則理无不盡事无不察說則人 之悔皆亡也〇本義以卦德釋卦解 心和順華而能照察事理和順人心可致大亨而得貞 信雖强之行不能成也文明以說以卦才言華之道也 正如是發華得其至當故悔亡也天下之事单之不得

華春天日九客八年 いのかて 我を取るなれるとおいろの下 在以口奏奏も光之所に近は 好中川七年公元生做人 中面は日昼夜なるし草町 月月のかで田田から春か 次的明存在我的人人在本板 五分分分子多次一家日澤中有火水次則火減火炎則水河華君子以治暦 えあおはかられる をから 日本られるぞしは、日日の 十八色田之品武形語附近於 尚武士克劳品雄原征性 不不正子 千年かんでいた リる大のまてかましたあ 所以用寺由臣意以今在这面接上以考底的方面和五里下七品的时中起于 尼方伯 茅林記一七者 大也故情之日单之時大矣哉○本義極言而情其大 受命於天故易世謂之革命湯武之王上順天命下應 展之遭易以治曆數明四時之序也夫變易之道事之 傳水火相息為華草變也君子觀變華之象推日月星 也 後四時成也時運之既終必有華而新之者王者之與 至大理之至明跡之至若莫如四時觀四時而順變革 人心順乎天而應千人也天道變革世故遭易单之至

年初は出る記る時上初九辈 因物用黄牛之羊皮羊字借用 表日雅用黄牛不 明今年のあしされ 西か美し 出した子吸之送校司不及け 書ででからいまちと前以可以有為也学年し切人方言于有るなで人兄の後我なれ口見る者をと の也なんではなると するかまに不告らまや Bのあれずのななけりなる不敢 上三日不中的我在以中收台因不 の付けがうかべな 化卖铅鞋 为有的 手程 存放比上不當臣 本力不出、子、百子姓入からた 日にかない民市を大きたい 傳變草事之大也必有其時有其位有其才審應而慎 矣盖到不中而體躁所不足者中與順也當以中順自 性上而到體健皆速於動也其才如此有為則凶咎至 固而妄動則不可也雖局東也革所以包束黃中色牛 則有侍妄之谷而无體勢之重以才則離體而陽也能 之意而有躁易之象以位則丁也无時尤援而動於下 動而後可以无悔九以時則初也動於事初則无審慎 則與天地合其序矣〇本義四時之變革之大者

1日本大学を書きててるだろ

六二巴日乃革之位古无谷象曰巴日華之行有嘉慶也 為聖人之於變革其謹如此〇孔顏達云華之為義變 取卦名而義不同也其占為當堅確固守而不可以有 傳以六居二柔順而得中正又文明之主上有防到之 有為故為此象雖固也黃中色牛順物革所以固物亦 改之名而名皮為華者以禽獸之皮皆可從華故以為 云吉凶何也曰妄動則有凶咎以中順自固則不革而 順物華用黃牛之草謂以中順之道自固不妄動也不 已安得便有吉凶乎○本義雖當車時居初无應未可

14日子村美人一月

THE PROPERTY OF THE PERSON OF 古而无咎也不進則失可為之時為有谷也〇本義六 變也〇胡氏炳文曰卦曰已日乃孚爻曰已日乃单者 善者也然臣道不當為華之先又必待上下之信故已 然必巴日然後革之則征吉而无咎戒占者猶未可遽 權勢體順則无違悖時可矣位得矣才足矣處華之至 君之单不待已日其所華巴日而後年耳臣待君之造 天下之弊新天下之治當進而上輔於君以行其道則 日乃華之也如二之才他所居之地所進之時足以革 二柔順中正而為文明之主有應於上於是可以革矣 君同德相應中正則无偏蔽文明則盡事哩應上則得

九英祖凶良属本言曰就有乎言三者商量成就简单 是則可以華矣〇本義過剛不中居離之極躁動於革 像九三水刚陽為下五上文居離之上而不得中躁動 從公論則可行之不疑矣革言酒當草之論就成也合 至能如是則必得至當刀有字已可信而聚所信也如 於華者也在下前雖於變車以最而行則有凶然居下 之上事苟當華豈可不為也在平守貞正而懷危懼順 始而後終故南巴白乃单之也 也審察當单之言至於三而皆合則可信也言重慎之 者也故其占有征凶貞厲之戒然其時則當羊故至

此行都當住於 A 改日至 1 品 差六子 性張かせ人 るのなないなのでは、これら 電文音を好品面 李帝司经典九四悔亡有学改命古歌日改命之古上下信其志也 世人なないを一百の安 象曰单言三就又何之矣 Back Chief 傳九四華之盛也陽剛華之才也離下體而進上體華 本義言己審 之時也居水火之際軍之勢也得近君之位革之任也 其時則當单矣若革言至於三就則已審斯亦有多而 可单也 直送而单之則凶雖義在所當車而正也亦不免腐然 部不中居都之極疑於直遂而不審者也故其占曰井· 於单言三就則亦有字而可革也○葉良琢日九三過 土

誠上信而下順其吉可知四非中正而至善何也日惟 當其悔乃亡也華之既當惟在處之以至誠故有子則 改命吉改命改為也謂華之也既事當而弊華行之以 其處柔也故副而不過近而不逼順承中正之君乃中 下无係應单之至也以九居四剛柔相際单之用也四 華之用也是以悔亡账又必有手然後華乃可後古明 有悔然卦已過中水火之際乃革之時而到柔不備又 既具此可謂當草之時矣事之可悔而後草之草之而 占者有其德而當其時又必有信乃悔亡而得吉也〇 正之人也上下信其志是以吉也〇本義以陽居除故

福野不在大京起后之明也 智吃了要分支養九五大人虎發未占有孚禁良平日未占有孚者不言而可養的此九智以其其九五大人虎發未占有孚禁良平日未占有孚者不言而 招武した役の不虚石马ない 化生艺人的美物品店 石本行之 有用中心的水 成成就大人方上人作的外 で見るあれるれるます · 新民之極順天應人之時也九五以陽劉中正為華之 表也 矣天下事不可輕改也自三至五皆言有字三議草而 主故有此象占而得此則有此應然你必自其未及之 後字四有字而後改淺深之序也未占而有字積至之 本義虎大人之象變謂希单而毛毯也於大人則自新 時手九四有其德有其時亦既改命矣必有孚乃吉甚 胡氏炳文曰爻在離火名澤之交其夏令改為秋令过

本取少以放在了成立之 是品品或者な生工。界日大人虎變其文炳也如火日之光明 有字謂不待占決而人自信之盖車重事也占當在未 家巴相慶於來蘇之先乃應此占劉牧云五為革命之 華之先而子文在未占之先必如成湯未華夏命而室 時人已信其如此乃足以當之耳〇胡氏炳文曰本占 诚辭草至於九五聖人獨決之以未占而有孚是龜笠 有字也〇按录言已日乃字而文之三四五皆曰有字 則知變草重事非有人写信之不可也 四以改命信志物盡從化至五則大亨以正不假占而 主是威武宣而文德者者也三以華言三就命令己申

持人件养礼我

等是的主要还是上六君子豹變小人单面征凶居貞吉,君子小人以位則 女民而必然的本智也 裁故征則凶居貞則古 X P 五八四天れ行而幸る 一十八八日一面白 矢山也 を大きずるわずなるよ 面事件品前是人士未 有上下以德則有正那今既无不单矣此時豈可復有性 傳革之終華道之成也君子謂善人良善則思從華而 兼四爻之助其可變可車之理灼然如虎文之烟也尚 然可单矣九五以陽剛之資居完說之上當大君之位 其專三戒其躁其可单未灼然可单也四戒其疑也灼 灼然之理則聖人无決然之舉華之道初戒其早二九 何待於占乎此湯武革命順乎天而應乎人之事也 有所弗詢鬼神有所弗謀也无乃輕於草乎盖天下无

亦单面以從上之教令小人 也當貞固以自守華至於極而不守以貞則所華随復 矣的更從而治之則為巴甚故至華之終而又征則凶 變其著見若豹之彬尉小人昏愚難遭者雖未能心化 家而理故曰結九居五者皆陽也大人虎變之象六居 則吉變革之事非得已者不可以過而上六之才亦不 變矣故華之終戒以居貞則古也〇本義華道已成君 子如豹之變小人亦单面以聽從矣不可以往而居正 可以有行也故占者如之〇虎文肆而者故曰炳豹文 上者皆陰也君子豹變之象〇下卦三爻皆言華上卦 八既董其外華道可以為成

中意思之色先生的位 如 即居于豹蝎其文府也既然有文小人革面顺以從君大多男方一块世经花 教がなる人は色には中のまりなり 夕ぬしなはかててれる見れる 於華山京方利 も点であるさ 世代 てよるしななどうし 水とだとしのうる水の木 第司·西書中之 三文或言改或言樂盖變乃单之成而改猶未也 傳華物者莫岩則故受之以則則之為用所以華物也 變腥而為熟易堅而為柔水火不可同處也能使相合 不可掩小人華面勉然順五君而有所從是亦足矣復 欲進而未已念其華面而必强其華心凶之道也故曰 該齊車至於上六從革者也君子单心蔚然如豹文之 征凶惟安而居馬正而守馬斯吉矣 一般上ようなると 一年一事五白人不知此世間以出版以及人之人也也也不不多

伊かる方はできる かまれなしよる 聖老京等大型南 のではってもかる内のなり るながすると大はあ 「するかしよとなるたち」 為耳上陽為致有將之象又以其木入離火而致烹飲 為用而不相害是能革物也內所以次車也 本義馬原錐之器為卦下陰為足二三四陽為腹五陰 成新必須當理故先元吉而後乃亨故曰與元吉亨也 九二之陽故其占曰元亨吉衍文也〇孔顏達云變故 **閂之用也故其卦為男下異異也上離為目而五為耳** 從此〇葉良珮日草之家傅以湯武草命言門之大象 有內異順而外聰明之象卦自異來陰進居五而下應 以君子之正位凝命言由革命故得正位凝命此单之

かみかられてなせるのと 上午 室やまるあれが疾候 九天のこれ ロセロれらかろ 在在北坡用其四人也形式 十四米方形 なべ不然を 作のかくかれるかくなどれ から、比以就要も、京か 中北京洋水 落 其不可以后 · 有样子上五百時子不用因 あるはましまかしのかんろ 象曰門象也以木巽從火亨能也聖人亨以享上帝而大 應接而能察乎物宜又其卦變自革而來桑自二進而 是有其德又有其輔也却才如是安得不太善而亨手 上行以居於五是得其位也且得中而應乎九二之到 **鉅門之用也故其卦曰門以二體之德與象言之巽而** 耳目聰明夫內疑則心順於理外而耳目聰明則随所 凝天命也又以二體之象言之以異木入離火而致烹 為用蓋有裁成輔相之道存馬此所以能協於上下以 而言聖人之制門也水火不可同處而能使之相合以 反對所以為門門所以次華也大傳曰門象也取制器

北州 司を選出した元 香田子はしたや 使有政治的主命临时秋 存からしな団を去れ 下作的的 一站好不被似地 茶戸時間入文文を 好がなる本へきいない大 墨·路里之美 兵而耳目聰明桑进而上行得中玉而應乎剛九二是以 我在看了了的一方以表型人工 大きたるとるかららきを 切かる年するる事をかえ 一地の日本は今天は中の一元かりまる日の美に再するではこののあろうかで なるめ 発を衣を発む方大中なから 者からからと対かのはかずる 国住的 自己们马子不住地 見るかい各主災期に古仏社 家日木上有火門君子以正位 形端工凝命體安重 子夏傳云初分趾也次實腹也中虚耳也上到鉉也故 之享帝貴誠用情而已養賢則養後生禮當極其盛故 傳水上有火以木異火也烹能之象故為則君子觀門 日太亨 本是以卦象卦變卦體釋卦辞 日門也〇本義以計體二家釋卦名義因極其大而言

なけれるかいとう見入れい 大田大大五大子上大子二村 およべからかかるあろうである からままさかなとこと 安まるかれる めててんか 新点上日本八本石品以前 明方が中心ないなると やるころがあるよったの人と えばないなべうしんを小木 京将でかべれ付きでは 門成児 あるなるをとすり アルス はき井まるませ 要平之後當端重以守之其后微矣○,胡氏炳文均B 今世俗有疑命之語以命令而言耳凡動為皆當安重 衆則疑其命令安重其命令也凝聚止之義謂安重也 疑之凝傳所謂協于上下以承天休者也〇丘氏行可 也〇本義男重器也故有正位凝命之意凝猶至道不 處必正其小至於席不正不坐母跛毋倚取其安重之 日草者變也聖人於華九四言改命而受華以門門象 取其端正之象則以正其位謂正其所居之位君子所 之家以正位凝命則者法象之器其形端止其體安重 又以疑命言之盖疑其已改之命也以門繼革所以示

项甲基四年本 写真的少定

第五元五人 家口門頭趾以出不未停也利出不以從貴也不為腹深 中作れてきて河内村今五五 なんとれてもかくたの一新為当 南南傳表指統 八十未 初六月顛趾利出否得妾以其子无谷 本義居門之下門趾之象也上應九四則顛矣然當卦 之器正然後可提其所受之南君之位正然後可提其 朝趾非利出否則為利得妄未為重有子則可重矣 占无咎盖因敗以為功因賤以致貴也○胡氏炳文曰 利矣得妾而因得其子亦猶是也此久之象如此而其 初門未有實而舊有否惡之積馬因其頭而出之則為 所受之命正者端在安重之謂也

大家传衣即不下了女 疾也不能就二是我仇有疾不我能即也也确以不著名的也 新なならおのはもち取る 間の子中家地性は水はる ·至至為我人不及人人不見有實我他有疾不我能即吉徐氏日初自願此有 ななかかへ出うそんで ないいいるられるれなん 人子自うおいれれいかる 日代 子ろうころいゆか 矣 石灰電波王疾 老此外孙母疾例 我能即終无尤也 象曰則有實慎所之也上從六五之正應我仍有疾而不 本義以到居中門有實之象也我仇謂教陰陽相求而 近不能以就之矣是以其象如此而其占為如是則吉 非正則相陷於惡而為佐矣二能以副中自守則初雖 也 也從貴謂應四亦為取新之意 本義門而顛趾悖道也而因可出否以從貴則未為好

をおとておかずれなかすし 大学的語を上子前上方を 朝の方野天化七八公子及 张文文文 是在 忠孝曰凡物之行以足獨門待兹故以耳耳单則行塞矣 及今天養子之 九三門耳单其行塞維膏不食方雨虧悔終吉無山郭氏 で子文だちはて出れる 教を在ると大様を方は 作作となりまるのながれ 朝空石以本四の人也さん から日本のエナなするころ 明さるでろうれしばながる たはそそのかのまれし 一年行孫は今七七 れるあず用ヤスリニューはの 一、日本本事 一十十十二 本義有實而不慎所往則為仇所即而陷於惡矣 人越五應上又居下之極為變革之時故為則耳方軍而 為人之食然以陽居陽為得其正而能自守則陰陽將 本義以陽居門腹之中本有美質者也胀以過到失中 不可舉移雖承上卦文明之腱有雉膏之美而不得以 朱子曰五為門三與五不相應不相當是內无耳也是 門耳變单而不可舉移也雖有維膏而不食此是陽文 和而失其悔矣占者如是則初雖不利而終得吉也〇

首相中 了一个 一人 四門折足物度公飲所有之實其形渥山 到夷三族指 すらかを見すする はてからし おき、古時では大きや はおからはなかかったと 象日門再華失其相求之義也 子不住心養之 本義見氏田形経游本作刑到謂重刑也今從之九四 當相遇失其悔而吉 居出任重者也而下腔初六之陰則不勝其任矣故其 終當水力方則如陰陽和而為雨始雖有不遇之悔終 也三與五不相遇如門月方變革而不可舉移故其行 陰陽終之和故有方雨之吉○胡氏炳文曰男耳六五 不通然五文明之主三上承文明之腴以到正自守五

要我去多了的生工六五島黄耳金钱利貞利貞戒以貞則利也象日門黃耳東白春本於時間中東日東山東白春公陳信如何也言所信任者,米如何也 なとなるずの家ですると 中以為實也 4とびあててしたりのそ 日本経、主共工工大中立 をすめた 同いろいいのます 異なるましむだろうな ガタカレかんの見るでされ , 買耳以舉門者也五虚中以應九二之堅副故其象如 本義虽於象為耳而有中德故云黃耳金堅副之物鉉 解此而出否四己有與霸故折足則缺皆覆矣〇張氏 **桑如此而其占四四四明氏炳文曰初未有門實故因** 故必囚九四所用非人无以自輔卒至敗人天下國家 之事而負君上之所託亦何異乎門之折足而覆飲也 **汩類與折異顛則含舊而圖新折則別毀而用廢美折**

一人 中華 中華 八十本

おおは日本の地である大村 を聞かよれしるまできれた いるがかなからうちのの 事作的言语生 上九門王敏大吉无不利象曰玉鉉在上副柔節也 四の 品かられる 大のなる人 るかとしまうしかけるな The second secon 象而其占為決言恐不利盖有是德則如其占也〇立 本義上於象為鉉而以陽居陰副而能柔故有主鉉之 乎金家以九文取玉象以文位剛柔相濟取皆未為不 鉉者豈六五視上九則為金鉉以上九自視則為王鉉 五之象也在門之外貫再以舉門者鉉也上九之象也 可也〇童溪王氏曰在門之上受鉉以舉門者耳也六 詳之○雙湖胡氏曰鉉所以舉門在耳上方可貫耳九 二在下其勢不可用或說恐反為優然上九又自謂玉 此而其占則利在貞固而已或曰金鉉以上九而言更

白鉉者以五附上五之鉉即上之鉉也五日耳而三亦 者以四應手初而四之足即初之趾也上回弦而五亦 書奇而實居的之此為腹至言稱而虚在腹之上為耳 即五之耳易道變通不窮如此也 日耳者則以三无應手五而有門耳草異之象三之耳 為腹故田有實自維青白公陳五為耳故曰黃耳上為 **鉉故日王鉉此豈非全門之象乎然初日趾四亦曰足** 民行可由一,則也初畫偶而虚在門之下為足二三四 上書帝而實責耳之上為欽初為足故為領趾二三四

かなけるないんべしからち 學是五五年之是五日就就虎站在六中跳跟而出象人心之恐動也 在所次でおけて不好者! なれば七枝なんな大家 無気なしき」なる方方方す なるなけれのえるかい 我以我快与黑面俊之尽是 魔しあう 果花 第十天 石塔み 日 かんままいず 句宏 學中主軍臣被一之的家題 方者者の末才主主震亨震來號號笑言啞啞和過震為百里不丧七色陸續 魔子をかれる大 あると変まかとまするかん 選が一日三十五三年秋 李安有 第十天大 世代在前五至上以前二月 故為主器之主作日子至不同風石至不去由東西不在內名四本十五 懼驚顧之貌震為百里以雷言心所以舉門實也以犯 本義震動也一陽始生於二陰之下震而動也其象為 黍酒和欝金所以灌地降神者也不丧心鬯以長子言 雷其屬為長子震有亨道震來皆震之來時也號號恐 傳主器者莫若長子故受之以震門者器也震為長男 也此卦之占為能恐懼則致福而不失其所生之重的 我情云使鹿化之教寺以至用保於魔不台字や 故取主器之義而繼則之後長子傳國家繼位號者也

上在我出世紀之世紀的 震來號號恐致福也常以免為安笑言啞啞後有則也不 如一大人人不及性人就是已 ·神岳之以不可以及五人以为心心教 路最福思士京東看班學 野なりなりなりまなする主 按度である他をかしまり 第十二字人不体证所ままな おななるなんなのででなれ 連行因之不をある おりをととまれら 奏的九 大きるてはまいるかな 白明中山下名山水河方 教育的任务 家口震亨 本義震有亨道不待言也 三尺利柄於末祭祀之先京年於**雙實諸界而加慕**馬 未子白人常似那震來時號號地便能笑言啞啞到侵 将馬乃舉幕以它出之升於姐上〇胡氏炳文白震為 震騰百里時也不丧心智〇棟木為心取赤心之義長 本義恐致福恐懼以致福也則法也言不因恐懼而變 百里以雷取象不丧心堂以長子主器取象

事的是多人震略百里為遠而懼通也出可以守宗廟社稷以為祭主 一個川日山東七英大一部 原明在九年天 苦辛 在民民工会产是现度 12/十一也 聖是在聖子一笑言啞啞後有則也文解與事家解同者以初犯為成計 李三字是 我也一初九震來號就後笑言啞啞古象日震來就號恐致福也 要是是電子學家回存雷家君好以恐懼修身省過去在人作在在治生 華大學智見不是不及山間的 場でなれたよく PL+TE 奉有水元百日九多位 まることのおけるそれがな 者を近正不属于見わる社 · 大波的不不不免子还的子 也出謂者出而代之主祭盖太子監國之時如此 本義成震之主處震之初故其古如此母項氏日初九 繼世而主祭也或云出即鬯字之談 本義程子以為通也下脱不丧也曾四年今從之出謂 也」立見男の好人を記述しる。如果出失のは出るいるですやなるとなるとはを見る 马长七 王士也也不當平為一智主在钦此明也去我了老女的无自正就好的人格者也

野子石が立るとは吸 要者不多不好的のは最 原文指律制作度主要是 西南城子取出る古八四五

六二震来屬億丧自跡于九陵勿逐七日得有壁氈州面 之達則當有去珠復還之喜 大无畏俱說得通雲奉亦云大畏其月以此知億為大 詳又當丧其貨貝而升於九陵之上然柔順中正足以 本義六二乗初九之間故當震之來而危厲也億字未 聚則未詳耳〇億字未詳九陵七日之象未詳愚謂數 自守故不求而自獲也此爻占具象中但九陵七日之 之至多為億說異云億大也亦是此意此云大安後云 四除爻乃為陽所震者震懼之震也 九四二爻乃震之所以為震者震動起震地

才落本家在四家一能们以去不正無子可以无告 黄都在五山城上中五十 男子在唐老人一六三震蘇蘇震行无青與其懼而蘇蘇自失不若因懼而 不務やおるが有国かん 作之不多大被京の中全 中語在日本日本在於所官 火のきょとなるま 月 りないとうを 東日震來属東間也干水名をあるのらちちもは不多が 則至四正也動以就正為善故二勿逐則自得以不正 震懼而能行法不正而就正則可以无過清過也三行 於平時且不能安况處震乎故其震懼而蘇蘇明若因 傳蘇蘇神氣緩散自失之狀三以除居陽不正成不正 地 得自二至上又自上而二七數二中正故雖失而復得 无疑矣八九即初九瞬於九陵二進在初之上也七日

東日震蘇蘇位不當不中正也不是公是少臣做件(分 月月八年刊美一月 九四震遂泥 遂无反之 意處震懼則莫能守也欲震動則草能奮也 傳九四居東動之時不中不正處柔失劉健之道思四 以去其不正則可以无青矣 居陽當震時而居不正是以如此占者若因懼而能行 而處震懼有青可知〇本義蘇蘇緩散自失之狀以陰 震道亡矣以復能光亨也〇本義以到處不不中不正 泥泥滞溺也以不正之陽而上下重陰安能逃於泥平 无中正之德陷溺于重陰之間不能震奮者也故忌逐

石北子野の九子名名は 若不可在西方電送常里 少分以做工下上發也新被移 多名大多大花卷六五震往來属億大无我有事 市作品は大小月元宝 4人きでもるとからて || なるなるまるえでうま めとうちなるんきな 果一就好了杜老年二名 聚日震逐泥未光也 野則陽明以門於四陰之間未能光 可居動極下來則犯即以其得中故不特无所發而又本義以六居五而處震時无時而不危也上往則至不 六六五當震之時往遇動極来則乗制故震往來屬然 能有事功也占者不失其中則雖危无丧矣八葉良琢 之劉不能達也 陷於二陰之間不能自震也遂者无反之意泥滞溺也 〇震之亨在初而不在四亨者初之劉當上達泥者四

明日と下升中的版图·又不免婚媾有言 ·香中套電影·水片其躬上于其降五之時能省懼則可无咎然與三无應故 とだすんかある 正をなる も共 日井中程しを今長七 · 通報· 大力程第上六震索索新亦不存以視雙隻不安定貌在凶震不于 見者恢复しれか出世代し 不是我感以父机不假死表之 大いてかでいないないではこ 印的程度后如金子的无子主 展等第四名選 以乘居卻又得上卦之中其才雖不足以制變而其德 本るかは帰僧者しる大夫五 三月及佐蘇州 到下土水 家口震往來属危行行有危也其事在中大无丧也 本義以除柔處震極故為索索變變之象以是而行其 足以自守也能自守則无所丧而又能有事矣是亦始 凶必矣然能及其震未及身之時恐懼修省則可以无 於惟然於无懼者也問以是以口上以下的皆是在四是了 答而亦不能免於婚媾之有言戒占者當如是也〇葉

大次なかえるなべにらった 性者の時間不動き履告 | | | 民上居二次之上があった近れを子上外上去でも移せ上上っておかるおであれては一個成文的 神野子子を国るるな 李智言我写聖子一聚日农索索中一未得也雖以无谷畏降成也 福比免ので下~胸葉大行 南之を人出だろされ作り かられたといかれるハインと 公内はしまて 了的名名名 新放之我方正 好子和口员 野城的 艺石山村 者宜不相害也而及有言馬以其无應於三故也 終不免於懼也故又為婚媾有言之占夫婚媾相親愛 本義中謂中心 索雙雙之甚而致凶矣然以除柔處眾極雖成懼之早 故也便能及夫震未及身之時恐惧修省則不至於索 良那云上六震索索視罪發以是而行則先自亂而无 以學變其凶必矣所以然者處震之終不及圖之於早

作五人三次八小男与具上す 幹作中子の外放し 只表所解-主教经男子者 老子教養·司王 也其象山取坤地而隆其上之状亦止於極而不進之 最三句子以我仍只有之数 · 可索然是下言之 其人乃无谷也盖好動物也惟背為止民其背則止於 初客屋的久之名常为品的工 きぶれる人夫 不色如七柱初五仍不可問 中天全長共非上人多移一九八年時常教即肝即再日常元五百種の差死後也不行所以入行を終了不大便下了是无也以不得了与了无意不不不人 りそながおの記点をてうり B其首是原於事意良其将不獲其身不見有我行其庭不見於人不見有物 少ななそれかあれてったること 付けなるり行不動方方之 生る見るないとふは七个四 木義民止也一陽止於二陰之上陽自下升極上而止 意也其占則必能止於背而不有其身行其庭而不見 所當止也止於所當止則不随身而動矣是不有其身 以次であせまっのきるとうこれがからのかるのかしあたせんらない 也動静相因動則有靜靜則有動物无常動之理及所 也如是則雖行於庭除有人之地而亦不見其人矣盖

からかおかなすうかえすっと 近やる者的様を近れたが念 をませりきあたるは、粉を 尺寸立方をちろなしてび人 又でなが がえのえれいれる からんからしてあれる方面 ですがとれなうおまれる お歌君と比からからかと 无私音之故 也得之子とも有好ならばらのかりのはらかやからいる初日の新見る 教本衙口召來出有了是五十 更及沒有是每一家日民止也時止則止時行則行動静不失其時其道光 かなからひとろわえなり 于物处分的力指內別不行為人 倉丘石将山美 在大数的小时 らずたて化かいかいかか 古老说有作为不遇,从外先 子时ある日初新見しあれ をご 王かると 明凡人中有定止則自然光明謂天理昭腆无物欲之累 The Part of the Pa 者行而止也動靜各止其所而皆主夫靜馬所以得无 有欲至於背則无欲矣 俗也○鄭正夫曰象言輔不言口言身不言腹言實限 本義此釋計名民之義則止也然行止各有其時故時多光為 艮其背而不後其身者止而止也行其庭而不見其人 不言臍有背面而立之家〇郭氏曰人之耳目鼻口皆 上而止止也時行而行亦止也民體為實故又有光明獨奏等止而止止也時行而行亦止也民體為實故又有光明獨奏等 おきるのれどもなしていないかけっきえかはかけれた所しては七村口が

出口の方面ののり里面一上其人无处也以不多的代数为者也就有只是主要打多水面的亲格官是 飲えずたる水学及でいる 出内都をうないるという 左が和りとあるこれ方は五 大きれ上日の不み止れるう 呼るよ又やよて けしかむ 金世本の下およしれせぬあ \$6- BE 0天天天里上山无外求之情故不相以是以不獲其外行其庭不大至日本當致了屋上 在此次日女打印金为太智~上 至是在是多是人其止止其所也上下放應不相與也上下到除陽各正 かる。飲るかからをなし 月月日日前長一大 本我此釋計解易背為止以明背即止也非者止之所 各當其可是也止之所如大學之仁放孝慈各得其分 則內不見已外不見人而无答矣是氏曰艮其止當休 也以卦體言內外之卦除陽敵應而不相與也不相與 之義大畜於民亦以揮光言之 是也釋奏自民止也而下言止之時自民其止而下言 北解作背〇丘氏行可曰止之時如夫子之仕止久速

信日或逐次不及 安出了此人 在のちたらとれる本部只し 高足生であるなり そいのであるるかる中学る大村ました他の上来かけ来れてしたで 第五章 · 家口歌山民君子以思不出其位不出位身止也思不出 大王二の又自成古ら 周易傳義補廷人士奉 日本大からおかいまとはま 多な分あだてなる比如此 おれる呼んになれたの時代ス 九思いかばなるする思いのき 全三部方子公本十二十二个 王程快回题为任用着于阳 初六尺其趾无谷利水真印教為意 止之所 傳六在最下趾之象趾動之先也民其趾山於動之初 谷而又以其陰柔故又戒其利水貞也 也〇本義以除奈居民初為民趾之家占者如之則无 固也故方止之初戒以利在常水貞国則不失正之道 也事止於初未至失正故无谷陰柔患不能常也不能

る何万神代人矣 経己らか合きでて云の し知行なは強の役、お好 在るるとなりできません 調之自無子哉えないまとかめんる人子をもちあければなる状 物たらい時父母を言え 在是以我再出不我地 いるなしみとからら上した 四星のあると思しころれる 正礼解一切展述不能的面立 在中国教授教式二民其腓不松其防其心不快六二自止其朋於也得 明水町 至日京五番せられ 名を頂からてん 象曰及其趾能止於下則位雖不當猶未失正也 矣然以相雄之分而无相成之益於其上有員多矣其引 能降而下求二雖有中正之德不能從也二之行止整 傳六二居中得正得止之道者也三居下之上成止之 平所主非得自由故為肺之象股動則肺随動止在股 必勉的随之不能極而唯随也雖然不在已然豈其所 而不在肺也二既不能以中正之道極故三之不中則 主主乎止者也乃副而失中不得止之宜副止於上非

象日不拯其随未退聽也 引力を見る方を一下によ 九三艮其限列其寅属蓝心 本義三止乎上亦不肯退而聽乎三也 傳限分隔也謂上下之際三以到居到而不中為成民 中下爻放此 體柔弱不能往而拯之是以其心不快也此爻占在象 處高位則有拯而无随在下位則有當极有當随有拯 為限則腓所随也而過到不中以止乎上二雖中正而 之不得而後随○本義六二居中得正既止其腓矣三 欲哉言不聽道不行也故心不快不得行其志也士之一

おしまでているちだけのか 石をそないたおぞも又! をおなるないあならる 就さまするとなはえなのよ おぬめつきまさし切った 机之私民在人名不好被七 女子がられますのデラン おでは云いる子夫とか 焼其中岂有安裕之理属薰心謂不安之勢意樂其中 得屈仰而上下判隔如分列其寅矣危属薰心不安之 也〇本義限身上下之際即腰胯也黄替也止于腓則 其矣人之固止一隅而舉世莫與宜者則聚寒忿畏焚 時而定於一其堅强如此則處世再戾與物際絕其危 止義故為艮其限是確乎止而不復能進退者也在人 不進而己九三以過到不中當限之處而艮其限則不 身如列其夤寅替也上下之際也列絕其寅則上下不 相從属言止於下之堅也止道責乎得宜行止不能以 之主決止之極也已在下體之上而隔上下之限皆為

日本は事十五十月

The state of the s 替是為你骨身之能屈伸處不當固止之分列之者也 曰三處上下之間故為限人身荣衛派通則泰而无疾 黄馬融謂夾斧肉內附外則身有主而可立分列其黄 右固止其股膀而分列其者骨則谷骨不能**屈伸上下** 甚也〇鄭氏到中日艮上下體之際虞翻謂束帶處也 不安之甚如此也以別氏炳文曰寂然不動者心之體 判隔人一身氣之運於好者不相属矣所以危馬薰心 到其黄则憂危之厲安得不薫灼及其心也〇 毛伯玉 則百體无以相屬心處中肯處陰角在背與心密相向 上痞下結則危矣〇按限即腰胯是主身之屈伸寅日

からある在前のおの思い · 一旦在多次是一六四尺其身无谷止其身使不妄動而不為物運故无谷 場と四件でれれもる四て れないるからあるからも 好中小九百多一六五尺其輔不輕言言有序中節每二輔與領舌皆言所 伊口馬神で生ますの金丁 新日民其身止諸躬也ねたのうまかくあせるや中原主我完正多や 聚日艮其限危熏心也 物二陰柔随三而不能拯之是狗物者也二本中正故 其心猶以為不快三過劑確乎止而不能進退以至上 本義以陰居陰時止而止故為良其身之象而占无咎 下隔絕是絕物者也三不中惟見其危屬薰心而已 如之何可以徇物感而逐通者心之用如之何可以絕 也

方方いるなららるながおよ 東男しを王王万は宿ら左 大多のなる子人の一作光一上九教良古命文化学あるそろや かいいる おきかわせいみころろと上 代之一位并以来でする古 おのれなるのいずしちつし 象日艮其輔以中正也是國家男工於与精心有多品有世之者之也以及其本本生成本中上,此其言不能止其行故梅亡 由出輔類之两房骨背後可得而見者 萬者也敦篤實也居止之極而不過故為敦人之止難 傳九以劉實居上而又成艮之主在艮之終止之至堅 於人終故節或移於晚中或失於終事或發於父人之 所同患也上九能敦厚於終止道之至善所以古六交 本義六五當輔之處故其象如此而其占懷亡也悔謂 之德唯此為古○本義以陽副居止之極敦厚於止者

作品物をも多数なれ 好め一英太空でなりを大 のからられかりませのは 如果是此的中心刀米拉丁 を乗り人しみれている 於事体品每向其 nanen 易失的男孩母人小学孩 名二次 きるをかけるみ 第四月是重日在至一家回敦艮之吉以厚然也生品有我不不然的的都后居的都也 けたなるなかったられる 日本 作まる夫人工大 震之體失其所以為艮止之義矣而全艮之時用者獨 在乎上故上敦艮吉而三艮其限屬薰心也下四陰之 丘氏行可曰艮六爻以三上為主九三連上二陰有互 **封命看趾動之先也凡物之感於吾心也氣必先動能** 則亦艮其身而无咎也二近下艮故艮其腓不拯其随 則皆随陽而止者五近上艮故艮其輔言有序四遠之 <u>m</u> 之義可識矣〇葉良珮云艮六爻以人身取象當與成 初遠之則但艮其趾未失正而已合二體觀之而重艮

そんちかさなてかえか おべ上下はちか上文四十 いからな上りなる とうべんなよりはぬらって 神子子朴位起于宋子世子 をきるななのでも竹数子 ひとてけるまれかなるよう あいます とうしょうちょう 之義相時通變時止則止時行則行乃其職也而九三 也限不可止也止其限則上下判隔其危甚是故曰刻 者也三不當止而止是性之過偏見義不為者也二不 能往而拯之其為氣也假矣故曰我心不快三當上下 過到不中乃一於止而不知變故曰艮其限夫腓可止 得矣但三以陰居上有限之象乃二之所随以為動止 氣已中順能止而不妄動者故曰艮其腓如此則於己 固守故戒以利水貞六二當腓之處而居中得正是其 之交乃限之象所以動乎上下而屈伸由之者有心志 止其先動之氣是為艮其趾之象然氣本除柔或不能

日の一人の一人 其貪列利隔也寅上下之際謂上自上下自下身體不 仁氣已不相貫美安得不厲薰心乎六四以除居除一 於止者也故曰艮其身與坤六四括囊相類與艮其首 谷六五艮其輔謹言也謹者非不言也時然後言斯如 有關而閉戶曾子不預沈猶行之難是也故其占曰无 皆由之以定矣故其占古而傳曰以厚終也盖成德之 給如終而言有序也悔宜其亡矣上九敦民只是愈义 不同民其背則無時行則行說六四以人事言如鄉降 同義此良字却無動靜與卦解同盖至於敦艮則天下 不變物莫能亦之意物莫能奪與不獲其身不見其人

四枝布如公山北西之此八 作者にある出今人は住 大学の世界のなるので ななるかとかいかのひと 野路医しますれた正 付えていてるといればする 是这分类及采野在成 聖中面電子序不べて産 柳村原生工具击近的50 申柱をあで込めた 用川方から起次は八世上 新女歸吉利真女歸因以新為吉而其利尤在於得正 止於下而異於上為不處進之義有女歸之衆馬又自 亨者通達之義非漸進之義也〇本義漸漸進也為計 傳艮者止也物不可以終止故受之以漸漸者進也止 吉者利於如是貞正也漸之義宜能亨而不云亨者盖 傳男女萬事之先也故言所以利者以其有貞其所以 也新所以次艮也 必有進屈伸消息之理也止之所生亦進也所反亦進 ケーデー

歌 家名四九九九八十五八八 西米ははと、すしおか代 は異しれてく 正をする日本比るかは 四年上会情をかられ 安不正名のるあるながな 点とするこのあるとする 路の生き出りからま るれおからるのるよう 家田斯之進也女師古也を明れた山南西多ろ 〇吳氏澄曰巽女在外将入而來歸艮男在內方止而 斬如此○胡氏炳文曰咸取女吉取者之占也漸女歸 感也以正是為取女之古止而異則其進也以正是為 吉嫁者之占也然皆以貞艮為主艮止也止而悅則其 問名納吉納徵請期親迎六禮備而後成婚女歸之以 未往迎有女歸以漸之象聘則為妻奔則為妾自納来 二至五位皆得正故其占為女歸吉而又戒以利自也 停如漸之義而進乃女歸之吉也 女師之吉

からいちのおりなる 出居人住不上代の教徒 れたらはしないるかく 祖太帝は古み教女正な · 在在我不正在我 古人 事立のでを指用したとう 要をなれるをなるかり! 要者はまるのははみるか かのそれかれかれははるる子 れー 本をかるるでな かこのてもようの大いはなら 生同事俸養補提中本 其位到得中也好有只是我可以出一位我 進得位住有功也進以正可以正邦也 義以正道而進可以正邦國至於天下也凡進於德進 進則得位以此而性則有功 於位其不皆當以正也〇本義以卦變釋利貞之意盖 為得位之正〇楊氏曰聖人於漸以敦風化于執此道 此卦之變自溪而來九進居三自於而來九進居五皆 進而得正位三離下而為上遂得正位亦為進得位之 傳漸進之時而陰陽各得正位進而有功也四復由上 以仕進則无干禄慕位之耻无假途捷徑之患以此而 一日中在日本社会状体及此の名文不安以及世界受

作我思己的美丽些 第日山上有木斯君子以居賢德東民止善俗東巽 ばかのなさ かんかえれる」と見は年間 新君の野状かてある国家止而实動而不暴則不因的也な作品のあい子できたりしてはある方 際家はて出たるの宝虫 関性なをました天子治か せんときとうなれてるの 即在者奏了六 なるなれなっているでは 作のようが新せるこであるたか 本義以卦德言漸進之義 後至動而後精所謂始乎為士終乎為聖人也善俗而 本義二者皆當以漸而進〇楊氏曰居他而以漸修而 位故特言之〇本義以卦體言謂九五也 傳上云進得位往有功也統言陰陽得位是以進而有 位也諸交之得正亦可謂之得位矣然未若五之得尊 以漸基而始變久而後成所謂為邦百年可以財殘去 功復云其位到得中也所謂位者五以到陽中正得事

おの在院人は生まの一之隔義无谷也村以中的上之子、我有いあしたまとういらいま 之安我免太祖我 傷初 四子中之世界之一北祖為住來有時其老後又有序告漸之義也聚口小子 あの 直根かられ ちまめ 出色元名是 東西しせ名か 有言而於義則无咎也〇按鴻之幻者惟恐失群故危 所安而上復无應故其象如此而其占則為小子属雖 本義為之行有序而進有漸干水涯也始進於下未得 亦一說可備 其隣使子與為萬世亞聖之賢盖其擇居賢善之力也 之間以務進其道語曰里仁為美孟子之母為子三遣 殺也〇胡氏旦日君子法漸進之家必居於賢德善俗

大のとそとより、大かるか林 とふからよういる日本 る大かなしんでなれてるない 五人五人子在是八二八二八八十一些飲食行行古飲食亦自属人親小象不素 チャクのチャスへ上ならか 化之取化二四枚一大智之力 王等多美兴之鬼 幣又漸進也二與九五之君以中正之道相應其進之 場所端の協力テカ金子が大 老伙な利しの共主と たるました治出の道由 展で供いれ名名したべ! 是是 飽之說可見也 同日初·传送人被我一次大大老 账於義則无咎小註直以小子有言指為之幼者呼類 似非盖言自屬人奈何其指為也 之而號呼而長者必緩飛以俟之民少男有小子之東 傳二居中得正上應於五進之安裕者也但居漸故進 初在下未敢自安也有小子歷之家属有言危而傷也 安国平易莫加馬故其飲食和樂行行然言可知也〇 不速然石之安平者江河之濱所有象進之安自干之 至之 --

不高つかかあかなるはる なん、お何人えずかける とかしな得我した王中共 在京北京王高臣便之桑四若以不正而合為婦學不育之家山利樂冠未 方よからななの \$\$P\$ () 大是的第一九三鴻新于陸夫謂三三右不守正而與四合為夫征不 西京京西天公路以十五今祈家擇日利用兵者不利婚姻盖用 只則要相殺 *食怒·多·Lyge a 相勝婚姻則要和合故用有不同如此 色或妝也 おおはなりる宝をなり いりいかの大野後一八日氏の 象口飲食行行不素飽也是以出了 安矣 意六二柔順中正進以其漸而上有九五之應故其象 本義磐大石也漸遠於水進於干而益安矣行行和祭 本義素飽如詩言素後得之以道則不為徒飽而處之 如此而占則吉也 j

於京的方孫日此好 かははそろかかあるな かからをはけるらめえけま 之所處非安地如鴻之進于水也鴻趾連不能握枝故

宠顺河心俊力顺其副性以相保聚也! 聚门夫征不復雖群腿新也婦孕不有失其道也利用樂 前能安成象日或得其桶順以其也為好多色見事的之意 六四鴻漸于木或得其桶无谷鴻趾連不能握枝惟斗柯 專當斯之時四以陰系進據陽副之上豈能又處故四 以其過割也故利禦冠〇夫征不復二句葉良珮說是 **桑如此而其占夫征則不復婦孕則不育凶莫甚馬然** 本義鴻水鳥陸非所安也九三過到不中而无應故其 11年17年11月

三次がなるなると思大五海州于院婦三歲不孕終莫之勝古象日終莫之勝 也不要看一名出致一古得所願也以歌回由于美格出此的我民人一百千年城一里了 例を方之立を全下のある。 天変気はまれれれれる特 後ゃんとしせたろうがおれて おいなのめらのあっないな 女二百らちょならことがかか なみもや 左を今 本以かりれをおり 周易作表情起人表 其合有新耳然得其古也〇本義陸高阜也九五居其 傳五與二為正應而中正之德同乃隔松三四三比二 而順巽故其象如此占者如之則无咎也 鴻小木樓摘平柯也或得平柯則可以安夫六四乗到 之道有必亨之理不正豈能隔害之故終莫之能勝但 本危或能自得安寧之道順以異如小象所云〇本義 不木樓桶横平之柯惟平柯之上乃能安處謂四之處 四比五皆隔其交者也未能即合故三嚴不孕然中正 一季五

おからずくろくれてきるこ 任さいかをなるでしま ちのなるるともなる 幸喜 常知堂 是在上九鴻斯于连其羽可用為儀吉言足以高出一世為天 ではかもある本を家し 承全教七年,必天天、 作用にてはおとは右だり · 一大日本の一大小可用為像古不可能也 足以将れたらなすで大大 日本の直を記をを上して、人様来ないこめスクラゆうタなみのあるおれるとは見る る人立引大松口子を ふり かなける 内が、幸るうなから お発して大かりてにいると かが月かり まからなかえ日より不 是占為如是則吉也 本義漸進愈高而不為无用其志卓然豈可得而亂哉 其羽毛可用以為儀飾位雖極高而不為无用之象故 之良是儀旌在縣之節也上九至高出乎人位之外而 本義胡安定程傳旨云陸當作透謂雲路也今以韻讀 六二正應在下而為三四所隔然終不能奪其正也故 其象如此而占者如是則古也

為泉為水鳥也初言于干進之始也二二一一一野則進于 〇胡氏炳文曰二志不在温飽上志卓然不可能主大 **脒為象三與四比夫婦之邪匹也故以婦孕不育失其** 大之出處於此當有取為〇丘氏行可曰六爻皆以為 在天位之外也然漸以少歸為義故中四爻有夫婦之 從則亦失漸之義矣〇葉良琢日漸六爻皆取臣之進 道也為象夫婦之交前患正配之難合而樂邪匹之易 象五與二應夫婦之正配也故以婦三歲不孕終莫之 干矣三言于陸則又進于磐矣至四于水五于陵則為 之漸愈高而无可進之地故以鴻飛為東言遠者以其

周易傳表補疑い七末 食故為飲食行行之象言可知以傳曰不素飽也惟不 卿大夫之位且上有九五之應則是遭遇明君也位隔 士庶有尊安之勢故曰鴻漸于磐事君之事而安享祿 子之仕也行其義也何咎之有六二以中正之德進居 說者謂鴻之飛長在前而幼在後幼者惟恐失群故危 進以資格也初六以除居下才弱而位平者也猶古之 於朝為義鴻之行有序而進有漸猶臣之官秩有班而 **徒食故處之安不爾不能安也九三以陽副居下體之** 初試為士今之舉進士於禮部者故為鴻漸于干之象 之而號呼為小子厲有言之象而於義則无咎語曰君

是雖所遇不善而能罪順以處之終无可真又為鴻得 如是則不得所安矣鴻漸于木之象也然案順而異體 為以善弱之資而遇緊險之人或遭緊險之事皆是也 保之象而言惟利於禦冠耳六四乗九三之割在人事 敢有既合之不以其道如之何其敢有也然以副桑相 征則不復還以離其族類之故盜思伐之矣婦孕則不 是進之不由其道者也故為鴻漸于陸之家夫陸途路 木中之桶而僅安者也故无咎謂之或得者賴其有與 也鴻水鳥也鴻漸于陸何為哉若照录辭以夫婦言天 上是說於進者也且上无正應以客比於四與之相合 依占者如之則古可知已 惠账其清風高節猶延獨一 出乎人位之外是其跡超乎物表賢達之高致也故為 邪之所間隔其熊以子萬民手故有三歲不孕之象然 者其謂輔君之公孫師保乎何謂婦三歲不孕婦五之 鴻新于透之象雖具賢德不為世用天下不得蒙其實 婦也謂六二也而三四問隔之亦猶賢輔臣在下為讒 邪不能以奪正也故又終莫之勝而其占古上九至高 而庶民可望之詞也五君位也似鴻之陵曰鴻漸于陵 **此標準故曰其羽可用為** デデオ

由南北省上西湾省村水田 刑害を口まわるめる不管上 うけんななん はあいってしたかまべる おとかあらずやかずるるえ THO KAS 素堂是的地际林征凶无攸利治地以此不知的人的方面的人是心里 大台があるこれがちのとは 本義婦人謂嫁日歸妹少女也完以少女而從震之長 男而其情又為以說而動皆非正也故卦為歸妹而卦 妹從姊而嫁謂之歸妹成卦明二少相感恒卦明二長 其占征凶而无所利也〇孔穎達云歸妹猶言嫁妹也 傳漸者進也進必有所歸故受之以歸妹進則必有所 相承今此卦以少承長非是匹敵明是妹從姊嫁故謂 泰卦六五云帝乙婦妹彼據兄嫁妹謂之歸妹此卦以 至故漸有歸義歸妹所以繼漸也 之諸爻目二至五皆不得正三五爻又皆以孫乘劉故 1.让工好无依的

神子有きるれると 神神なな

りのなければは 日歸妹妹之為言无父而有兄之辭也无父而歸於人 歸自被歸我之解此娶婦之家也今日歸妹自我歸彼 謂進有所往也妹從姊嫁本非正匹惟須自守軍退以 輕好從故以此卦當之征凶无攸利者歸妹之戒也征 攸利仍該齊歸妹者嫁女之家非娶婦之家也新日女 之解婦人謂嫁日歸此嫁女之家也号為不曰歸女而 事元妃若妄進水龍則有並后凶谷之敗故曰征凶无 比鄉林馬估者諸侯一取九女嫡夫人及左右膝皆以

孰歸之兄歸之也孰為之兄震是也故名者少女食之

妹也震者長男名之兄也曷為歸你征凶无攸利不待

录白蹄妹 除陽交感天地之大義也天地不交而萬物不 與歸妹人之終始也在必至不予人人之母徒又多有多 本 まる 大阪 大 義也天地不交萬物炮男女不交萬世炮故曰歸妹人 成公歸之此夫婦之大義也非夫婦之大義天地之大 所依歸不亦說乎惟不待兄之命而自征行以往馬則 而震動也伯兄三夜不息燭不亦動乎少妹之孤身有 凶則无攸利爾而况位不當柔乗到乎 之終始也嫁者女之終娶者男之始也說以動者完說 兄以已歸於人而自住馬是活奔也活惡之大奔行之 醌聘則妻弃則妄非凶千又何利之有伯姬之歸宋魯

别也則恃夫婦唱随之理 征凶諸交位皆不當也則秦男女內外之正无攸利柔来 说以動所歸妹也 之始母道始于此一 本教釋事名義也歸者女之終子道於于此生有者人 本義又以卦體釋卦辭男女之交本皆正理性若此卦 本義又以卦德言之 聖人制禮令姓婦從其姑好而乞妾勝所以廣其繼嗣 則不得其正也〇孔額達云天地交合然後萬物番與 以象天地关地以陰陽相合而得生物不己人倫以

嵩山晁氏以道曰以爻位推之二四以陽居陰有男以 九二有失屈於婦婦制其夫之象故无攸利 行皆失正故征凶上卦以六五乗九四下卦以六三乗 不正從女之象三五以陰居陽有女以不正從男之象 妾媵之脱進求殊寵即是以賤陵貴故无施而利也〇 姊是以說也復因二三四五皆不當位釋征凶之義位 終始那說以動所歸者少女維與長男交然嫁而係於 又因六三六五乗到釋光攸利之義夫陽貴而陰賤以 既不當明非正嫡因說動而更求進故戒以其在凶也 長相交而得繼嗣不絕歸妹是非天地之大義人倫之

· 一家日澤上有雷歸林若子以水於知散戒其動 東京なるなるののかが 初九歸妹以娣跛能發征古 本義初九居下而无正應故為婦象然陽到在女子為 夫婦正而可常之道天下之反司者皆不能永終者也 觀其合之不正知其終之有敵也推之事物莫不皆然 傳歸林說以動者也異乎恒之異而動漸之止而異非 思永义則无終散之患矣 所畏君子終身之防也是以君子於說動相感之時必 ①本義雷動澤随陽動於上陰悅而從歸妹之象君子 ①陳皐日夫人之所說者澤也所畏者雷也說中必知

破若行之不安者也妹都娘之不正者也歸妹而以姊 の劉牧云歸林則以不居其正為得宜故行之以不正 娣承嫡之象二承五嫡承夫之象故曰跛能復相承也 猶不正而能行也位雖不當行未失道上下相承故得 明有讓也初以陽德而處卦下保其所恒故可以久也 從姊歸而復以娣從即又季也明矣當歸妹而用其姊 行休人刀可故娣妾承正室以行則吉〇陸德明云妹 能發之家而其占則征古也○蘭廷瑞云跛者不能專 賢正之他但為娣之賤僅能承助其君而已故又為跛 征吉妹從姊娣從嫡相承之謂也〇王介南云初承之

けるいかるるれたる

非跛也九二之妙能視能視則非妙也非致言跛非妙

艺程 第一家日歸林以婦以恒也跛能履言相承也以常德承君 本義恒部有常义之他〇就察初九之波能優能履則 能守其娣之禮為恒也不取居正而又處下以尊正室 為吉何則尊正室也若行之以正則是專正室矣故以 婦之无終而不言歸妹 六文初以陽明安分為美三以奈邦上借為嫌二又能 側行奉上故得上下順而言相承〇丘氏行可曰此交 之間則言歸妹之愆期上陰柔處一卦之極則泛言夫 不於其才而自遜其美何吉如之在九四為二五正應

九二眇能視利幽人之貞 から と と できる 是娣聽女君左右之也初九以妹媵之平副貞之德而 真吉者命而往者也凡師左右之曰以今曰歸妹以娣 有正應而及陰柔不正乃女賢而配不良不能大成內 能體味弱之柔承女君之尊所以吉而相承也恒者能 而初九為娣則征吉何也征凶者不待兄之命而自往 安其分之當早也 者也初九在下非妹也妹之姊媵也卦解言歸妹征凶 本義的能視承上及而言九二陽到得中女之賢也上 言則則言昧跛言弱也勿孤之妹味若不振待兒以振

日かれるなれる 地大不士人の別元本日子 数分子がある。女公子 ななされてさいか · 家日利此人之貞未變常也世人以 媒們為常故以自於 為慶常不知刀常义之道也 **战蘇初九六三九四六五皆言歸妹而九二獨不言何** 則奪女兄之權故當退處其位分中其幽靜之道而不 發故獲利也雖有其應不妄求進是未變常也 視也然上有六五之應不可以越其位分而上進上進 其正能盡里下之節以承於上猶目之偏則亦不發於 人亦抱道守正而不偶者也〇胡旦日以陽居陰優非 助之功故為則能視之象而其占則利幽人之真也過 也九二之位下卦之尊者也即妹之身也妹之身而言

六三歸妹以須反歸以娣 歸而未得其歸頂侍也侍者未有所適也六居三不當 傅三居下之上本非賤者以失徳而无正應故為欲有 貞之賢徳體陰而陽其性質疾而副其德故也幽則至 位使不正也柔而尚到行不順也為說之主以說求歸 静而不可動貞則至堅而不可渝皆到陽中正之常德 動非禮也上无應无受之者也无所適故須也女子之 而不變者也故曰未變常也 之身而有視遠之聰明以女子无父之訓而有幽陽中 一曰利幽人之貞言少妹之幽貞也九二以孤幻味弱 である。 學

神を立て大例を受し 中海 伊大三里子のも 生人の工家書は安田子坊 をあてうとうとしれれのこ 変言なるなるからよ 間的技場大万公子子 はるすべいないるべんない なるなななられる個をある 要養養為主 丘氏行可曰三以須而從二二副中應五五小方之青 在二十二日中二五十八十八 あるとれなっちかいでった 日本女が防夫のでかる女 のかるで呼吸されるこ 家口歸妹以頂未當也 勝則可也以不正而失其所也○本義六三陰柔而不 中正来為說必主女之不正人臭之取者也故為未得 處如此人誰取之不可以為人配矣故當反而求為姊 侍也三本非殿无應宜待而急於從人不得為人配而 所適而及歸為娣之象或曰須女之賤者〇徐氏曰須 進而甘於軍下卒為人所賤者何以異此 反歸為婦是自敗也夫人志在禄位而不自重欲速好 也在三不若反歸於下以姊媵之禮事之則為當位而

東京町内はある

かくる以前と はあらく不成るうななな 九四歸妹您期遲歸有時象日您期之志有待而行也 柔不中正无女他者四副健在女則賢明有徳者也士 本義九四以陽居上體而无正應賢女不輕從人而您 宜也時謂仲春○胡氏炳文曰三以其无應也急於從 期之志待年而往是未虧也待時之義得禮而行是所 期以待所歸之象正與六三相反〇石氏介曰妹當歸 皆未當之義也 而您期者待年也您期以待年當年以待時逐待也您 无騎偕之鬼矣象言未當者以六居三柔乗劉賤陵貴 八而反歸以娣四雖无應不輕徔人而愆期遲歸三除

まではる方的奏一古以他禮為光華而不以衣服為容師 るでののなるなな AE)除水果,放大人场的 我们是在二些油的家 できる情に吃人之好勝ち ないだれのそうもとと るるながあめいる性を 老高屋學等一大五帝乙歸妹其君之被水相不如其姊之袂良月祭望 大好力子と 信口をは下ぬりゃんばむ 見中などする資産せかの 中道心 東日帝乙歸妹不如其娣之袂良也其位在中以 事實行 月十八月 有有 其一一元 望在小畜中学以位言隆盛而與陽亢也在歸妹以使 女下嫁而服不盛之象然女德之盛无以加此故又為 月幾望之象而占者如之則吉也〇胡氏炳文曰月我 本義六五条中居尊下應九二尚德而不貴飾故為帝 言陰盛而可與陽對也 之自賤自贵如之

虚筐也 周易傳義補疑 大大卷 上六女承崔无實士到羊无血无攸利象日上六无實承 本義以其有中德之貴而行故不尚節〇就蘇六五以 帝乙之賢居至尊之位體中正謙柔之德而九二之賢 傳上六女歸之終而无應女歸之无終者也婦者所以 為過之而自以為不如位高而志益甲身貴而行愈謙 嫁於諸侯又能自謂我雖少君也姊雖吾妄也不以已 此帝妹之所以愈賢與月與日望則相敵終望者月遜 女為之妹以是兄歸是妹豈不光華焜耀哉於此而下 日也婦遜夫之象也故吉 ----- 均玉

質婦職所供也古者房中之姐並歌之類夫人職之諸 惟而无實无實則无以祭謂不能奉祭祀也夫婦共承 當鄉絕矣是夫婦之无終者也何往而利哉〇本義上 血亦无以祭也謂不可以太祭祀也婦不能奉祭祀則 宗廟婦不能奉祭祀乃夫不能表祭祀也故到羊而无 米光祖奉祭祀不能奉祭祀則不可以為婦矣筐惟之 侯之祭親割性卿大夫皆然割取血以祭女當承事筐 六以陰孫居歸妹之終而无應與三約婚而不終者也 口女未成為夫婦也先女而後士罪在女矣故无攸 故其象如此而於占為无所利也〇胡氏炳文云曰士

高要·中五色 一些亨王假之勿感宜日中言王者至此世亨極盛之時而 へんかをるあらななと 中, 四, 省主中中的夏其威極尚衰也作易聖人以為此勿爱但宜常如日之 かるなるでなけるるち たつべしてかなるのか 得ふずの多かそみりち すずとない方田元は不及!!! 世的用名的有定正中不使之中而至於另馬則可矣 三 震離 上下 故歸妹之後受之以豐也 羊无血以三上无應是夫婦之禮不成而祭祀无主矣 傳得其所歸者必大故受之以豐物所歸聚必成其大 正故无攸利爻以三六不相應是約婚而不終故无攸 利然其歸罪於名之陰則一也〇李氏曰承筐无實則 之占與卦解同而有不同者卦以六來居三失夫婦之

大帝からしずかか正なし やまりな大不いはあるなか 日中四月後了七色不以 南大学力政府和古出 不从住代西左 医咒马有 松養自中本品种名 本義豐大也以明而動盛大之勢也故其占有亨道馬 然王者至此盛極當表則又有憂道馬聖人以為徒爱 致乎此必有以憂此吾王曷致乎此也明而畢照動而 中也〇就孫豐之亨孰致之王致之而至於此也有以 有為是以致之也致之矣曷為而爱王之明宜如日之 无盆但能守常不至於過盛則可矣故戒以勿憂宜日 伏盈者虚之原息者浙之根天地也日月也鬼神也四 另勿謂宜照其照将夕盖月中者易所倚月盈者食所 方中者日之至盛也然王之勿憂止於日中之時而已 何也豐則尚宜大也中則尚宜照也勿謂方中其中將

ス

下台汽走角州 第三年有天及在美王假之我至此之時所尚者大事也勿憂宜常如日正中 なんないかしなっででなれて 是这一两人我是是好死大至了出的是张日葵至第为了一部大哥里里了不知如中年工不不敢的有了在快 なれらしずと 第四十五日本 宜照天下也過此時則是矣不宜照天下矣盖知日中 信力を予以不死がを保し機 東京外口の作る大きのいか 不たいろれてれてもは今のいも 如美国是·世界一日中則長月盈則食天地盈虚與時消息而况於人乎况 1947女真理共前诸息 ----うりりなかだめる と 心應事物非明則動无所之非動則明无所用 录曰聖大也明以動故豐明動相資而成豐朱子曰以明 之川則自知日县之當戒發此意為玩治者戒也 宣祥、清英的、子鱼农艺原於江安中屯在东西安丘亦於北京各点住官正常店中 本義釋主解於原日在受人於石墨之際教養成後其所有在出門內有 本義以卦德釋卦名義 時也所不能遁况于人乎况于天下之治亂安危存亡 24

常任成千世都上文在城下以入 がなくなから気しそれ 京行月上海 老板早度七十 一村する大水の名子が 建品牌品 里安耳及林下次 出る中でなからいてです 大石ての西州かりずしなか 例となっかすがなるるかし からべくるが 弘 大學之一 起人人任本法議於八月五 天水宫五衣不在口外的为 ては死れ去るると てのたのをある娘しお今上 るな中大七万里七作石と 象回需電皆至豐君子以折獄明致刑成 月易任身和主人一月 息也於豐盛之時而為此誠欲其守中不至過盛處豐 中也 當長账月既盈滿則有處缺天地盈虚尚與時消息况 資成豐之,祭離明也照察之象震動也威勵之象折掛 傳雷電皆至明震並行也二體相合故云皆至明動相 傳既言豐盛之至復言其難常以為誠也日中盛極則 之道皆易也哉〇本義此又發明卦辭外意言不可過 人與思神手思神謂造化之迹於萬物盛衰可見其消

四百年表為我一初九遇其配主雖自均然相從故无咎往而相從則能成 农 我刑好不平便元头 在我四日至聖人了一共豐有可店尚 作中、選手不泉上将不ら おや 大出る安田で 正になるるるで、大が以不 安不的外正由关 吞於 事を考然からきって 神似天列以传与完一家 技 子野河村八大舟七处三个基 見せるとゆう人は大年 りの子人所を一人七本 傳雷電皆至成豐之象明動相資致豐之道非明无以 成故君子觀雷電明動之象以折微致刑也〇本義取 照非動无以行相頂猶形影相資猶表裏初九明之初 而斷不至則威刑不能致而果故必雷電皆至而後可 斷乃可致刑斷至而明不至則微辭不能折而照明至 者必照其情實唯明克光致刑者以威於姦惡惟斷乃 九四動之初宜相須以成其用故雖旬而相應位則相 其威照並行之象〇誠蘇有電之明乃可折獄有雷之 四人

在金巻かれる大下ではけた なると大の数のきたなと のこのほど 人の方はすまやなけれ 明をあるなどのあれて 形像ないだってんなもとんな を下れなどの変ん 之從劉下之附上敵則安肯相從唯雙之初四其用則 ~相資其應則相成故雖均是陽副相從而无過咎也盖 應用則相資故物謂四為配主配雖匹稱然就之者也 无谷旬均也天下之相配者常非均敵如陰之應陽柔 旬均也謂皆陽也當些之時明動相資故初九之遇九 非明則動无所之非動則明无所用相資而成用同升 如配天以配君子故初於四云配四於初云夷也雖旬 則胡越一心共難則依怨協力事勢使然也在而相從 則能成其豐故云有尚有可嘉尚也〇本義配主謂四 四雖皆陽副而其占如此也

かかりなからえて 母るてくしずるとなって ゆ男人なべ萬万俊中-セ 在我见下 五中主都也 切字南日 在中一里·西里多及第一六二些其部日中見斗住而求之則反得暗主之是情思 するなかなる 男におくれ · 大多子子 | 之於時故為豐部見斗之象部障敝也大其障敵故日 一年日元かりだおした天 疾惟有乎以感發之者古五城西里石河西数三面多者以表了 九三豐其市日中見沫暗之甚施於明不可施於用不可象日有写發若写信以感發五之志也 家日雖自无谷過旬災也 本義六二居豐之,時為雜之主至明者也而上應六五 本義成占者不可求勝其配亦爻辭外意 誠意以感發之則吉戒占者宜如是也虚中有写之東 中而昏也往而後之則昏暗之主必反見疑唯在積其

強者の三の再上る 金面了人年 如我节 大味信のみなけるで中大王 行不子与は今日不子生 大きるとなるのかかかん 作の用の左右きなのときな をはいける村名であえ 中四子中是到多二 因應上而然而非三之咎也故无咎 本義沛一作が指情慢也其敬甚於部矣沫小星也三 〇三陽副才本可用以應上震動之極故象以折右肱 處明極而應上六雖不可用而非咎也故其象占如此 聚也以五之系暗而两爻或比五或應五也三之豐池 見沫也以應乎上上處動終明極而反暗故也〇此卦 豈亦所謂太副則拆與○二與四其皆有豐部見斗之 動極而以上固致三右肱之折可用者不可用矣若三

松田かれから日本のです 町はみつがなかるがしません 多数はのするないかなっ を見くうかるできるよ の大臣はる前は至り川 都臣 1 切上七山甘主共和 からぬけるれるじの分で 家日豐其部位不當以陽居強也日中見十個不明也遇 象曰豐其沛不可其共流大事也折其右 胚終不可用也 九四豐其部日中見斗遇其夷主言問題以名為文元初多 其夷主吉行也 六五來章有慶聲吉東曰六五之古有慶也 本義象與六二同夷等夷也謂初九也其占為當豐而 遇暗主下就同德則吉也 六五為豐盛之主從之者皆吉而有尚惟三應上上凶 而三亦施於明施於用皆不可然摘以陽剛得正而得 无咎惟上則自蔽而凶甚爾 なよれてし

体をいるあるできるか なるだけるとなんがあ 投入をされるでかから正 学用大きなとなる以用 会を南西主ます を外のをまするなら 親山尚不見有人 上六曹其屋高元部其家臣明則其戶関其无人三歲不 古二四古而初亦云往有尚謂此三交皆從乎五故也 盖因其柔暗而設此以開之占者能如是則如其占矣 平五也四下就初同輔乎五者也故五以来章有慶奏 〇傳以來草但指六二言愚以為四比五二應五初去 本義質雖柔暗若能来致天下之明則有慶譽而吉矣 當來之者乎獨三應上非五所能来爾二有手發若發 初以共輔乎五此三爻者非所謂章明之才而皆五所 五雖遠不能自致然遇四之配主而同往馬四亦欲得

象曰些其屋 高天際翔也閱其戶間其无人自嚴也 齊云家之揜也門之空也自此三歲而熠耀行於室麋 大其屋而反以自敬之象无人不觀亦言障蔽之深其 本義蔵謂障蔽〇傳以間其无人自蔵也謂人以其昏 暗自高大皆紊絕之自蔵避而弗與親說恐未是楊誠 中日中之象五上卦之中日中之位初與四未及乎中 凶甚矣○胡氏炳文云卦辟曰勿憂宜日中二下卦之 本義以陰柔居豐極處動終明極而反暗者也故為豐 鹿遊於室矣豈復视其家之有人跡乎此說得之 三與上已過乎中者也况上又處豐之極其的宜矣